

## ◆◆ 年頭のごあいさつ ◆◆

### 魅力的で力強いチームの力で子どもを育てる

置賜教育事務所 副所長 土屋正人



平成26年が幕を開け、3学期が始動しました。

今年度もたくさんの学校を訪問させていただきましたが、どの学校も、子どもと先生方の輝く姿であふれていました。

子どもが輝いている時、そこには必ず支え導いてくださっている先生がいます。子どもの話すことを体一杯に受け止めている先生、それぞれの発言を構造化し価値付けした板書で一人一人の学びをみんなの学びに創り上げている先生。IT機器を自在に操り実感や納得につないでいる先生。共に高め合う学級づくりで元気で前向きな子どもを育てている先生。自分の魅力でぐいぐい子ども達を引っ張る先生。子どもに寄り添い、じっくり思いを受け止め安心や勇気を与えている先生。

学校には、いろんな個性を持った先生がいらっしゃいます。異なる発想や価値観を持った先生が同僚性を発揮したとき、学校の魅力は2倍にも3倍にもなります。リーダーである校長先生の力で、それぞれの先生の個性をよさに変えて繋ぎ合わせ、さらに魅力的で力強いチームにし、いのち輝く子どもを育てているのが置賜の学校です。

第5次山形県教育振興計画後期プランでは、重点テーマとして「変化する時代を主体的に生きぬく力をはぐくむ『いのちの教育』」を掲げています。今日の前にいる子ども達は、いずれ私たち教師を乗り越え立派な大人となる存在です。その子ども達が大人となった時に「生きぬく力」を備えた姿とは、どのような姿なのでしょう。それは、「家族・地域・社会の中で、自分は価値ある存在であることを実感し誇りを持ち胸張って生きている姿」「周りの人々と関わることを喜びとし、目標の実現に向けて共に協力して生きている姿」なのだと思っています。これは生徒指導の機能の「自己存在感」「共感的人間関係」「自己決定」を自分なりに平たく表現したものです。生徒指導の機能を生かした指導や教育活動は、手立てであると同時に、その一つ一つの積み重ねが、子どもを輝かせ「生きる力」を育てているのではないのでしょうか。

もうすぐ巣立ちの時を迎えます。3学期は子ども達にとって、自分の成長を実感し未来に向けて一歩踏み出す準備の時期です。私達教師にとっても、目の前の子どもが自立した大人になった時の姿を思い描きながら、自分の残した実践の確かな足跡を確かめ合う時にしたいと思います。

## 思考力・判断力・表現力等をはぐくむ算数・数学の授業づくり研修会

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の笠井健一氏をお招きし、標記研修会を開催します。研修会では、笠井氏より算数・数学の学力向上についてご講話いただきます。これからの算数・数学の授業づくりを考える絶好の機会となります。

ぜひ、多くの先生方に参加していただきたいと思います。

- ◆ 日 時 平成26年2月19日(水) 14:00~
- ◆ 場 所 米沢市すこやかセンター

※詳細は各学校に送付しました案内文書をご覧ください。



# ～置賜管内の学校研究の傾向について～

今年度も早いものであと3ヶ月。各学校においては、学校研究のまとめに取り組まれていることと思います。今年度の成果と課題をもとにして、学校課題の解決に向けた学校研究を推進していくことが求められます。以下に、置賜管内の小・中学校における学校研究の傾向をまとめました。来年度の研究構想を練る上で参考にいただければ幸いです。

## ◆ 研究テーマの傾向

各学校の研究テーマやサブテーマを見ると、以下のようなキーワードを多くの学校で取り入れているようです。

キーワード	校数
学び合う(学び合い)	19
言語活動(の充実)	15
表現(活動)	13
高め合う(高め合い)	9
伝え合う(伝え合い)	8
確かな学力	7
思考力・判断力・表現力(等)	7

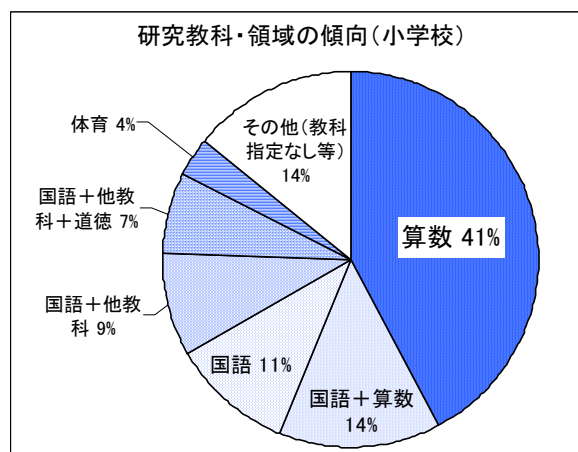
※ 上記キーワードを組み合わせているものも多く見られます。

## 《 学校訪問を通して感じたこと 》

- 研究の視点として「付けたい力」を明確に示したり、共通実践項目・重点等を設定したりして、焦点化された研究の取組が多く見られた。
- 全員が「子どもの姿で」「子どもにとって」という視点で積極的に協議している学校が多い。
- 単元全体を見通し、毎時間の指導内容を重点化するとともに、ねらいとまとめの整合性を図りたい。
- 事後研究会では成果や課題を共有するだけでなく、解決策まで協議し、日常化につなげたい。

## ◆ 研究教科・領域の傾向(小学校)

算数科を研究教科にしている学校が41%と最も多く、昨年度に比べ国語科を研究教科とする学校が減っています。その一方で、国語科+他教科による複数教科を研究する学校が増えてきました。「言語活動の充実」や「思考力・判断力・表現力等の育成」の観点から、国語科で培った力を他教科に活かしていこうとする研究が少しずつ増えているようです。



## 幼保小の円滑な連携に向けて… 置賜地区幼保小合同研修会

去る11月25日、川西町農村環境改善センターにおいて標記研修会を開催しました。幼保小連携推進モデル開発プロジェクトを受託いただいている長井市立豊田小学校の実践発表後、山形大学准教授の樋渡美千代氏より「これからの幼保小連携に向けて大切にしたいこと」と題し、ご講話いただきました。幼児教育・小学校教育ともに“自主性と思いやり”をはぐくむ協同的な学びのつながりがあること、また、互いの学びの姿を理解し願いを共有しながら、幼保小それぞれが責任を果たしていくことも大切な幼保小連携の在り方であることを教えていただきました。

